森林の恵みを活かした持続可能な地域づくり

群馬県みなかみ町　リンカーズ

メンバーの集合写真、20～70歳代の幅広い世代が参画

自らがつなぎ役「リンカーズ」

リンカーズは、20～70歳代の幅広い世代の地域住民33名で活動している。山林所有者はもちろん、農家や自営業者、観光業者や公務員など、立場も様々である。もともと林業に直接関わるような人はなく、すぐ近くにあるのに山林との距離は遠かった（所有する山林の場所もわからない状況）。そんなメンバーの数人が、町が主催する林業研修会に参加したことをきっかけとして、平成29年3月に16名で活動を開始。リンカーズという名称には、自らが林家（りんか）となり、時代と時代を、地域と地域を、人と人とをリンクさせるつなぎ役になろうという想いが込められている。我々の取り組みに賛同した地域住民の方々が山林の価値を再認識し、自ら主体的に関わり始め、活動の輪も広がりつつある。

古くて新しい「自伐型林業」

リンカーズでは、主に休日を中心として、地域の森林整備や竹林整備、森林資源の利活用などに取り組んでいる。年間の活動回数は約50回で、平均4～5名のメンバーが参加している。これまでに約7・9ヘクタールの森林整備を行うとともに、長年放置されていた集落の竹林約0・6ヘクタールの整備を行ってきた。単に整備を行うだけではなく、自らが技術を身に着け活動を地域に普及させていくことを目指しており、メンバー数も16名から33名へと増加している。また、

共に活動することで世代を超えたコミュニティの形成も着実に行われている。

現在主流となっている機械化・大規模化された林業は、多くの面積を整備することは可能であるが、山林所有者や地域住民自らが整備に携わることは困難であり、山林との関係性が薄れ技術が衰退してしまうなどのデメリットがある。我々が取り組むのは所有者や地域住民自らが山林を管理する「自伐型林業」で、小規模なため多くの人が参画しやすく、自らで行うため無理なく継続性も高い。

森林資源の有効活用

山林の価値を高め活動を継続的なものとするためにも、伐採した木材や竹をしっかりと搬出し、一定程度の収入を得るための様々な活用を試みている。このことは、地域内での経済循環や雇用の創出にも期待がもてる取り組みである。

①高級家具材としての活用

地域の山林に広葉樹が多いことから、健全な森林づくりのために択伐した広葉樹を、国産材の高級家具材の材料として販売している。町では、広葉樹を中心とした木工製品の商品化と木材のブランド化を推進するため、国産材を使った家具の製造販売や建築を手掛けるオークヴィレッジ株式会社と連携協定を締結している。我々が伐倒した木材が町長の机としても活用され、木のおもちゃや名刺入れなどの小物にも加工されている。

②エネルギーとしての活用

用材としての活用が困難な木材については、薪に加工し道の駅や直接的な販売を行っている。ひと手間かけることで販売単価を高めることができている。地域的にキャンプ場などでの需要も高く、製造が追いつかないほどである。また、町でも薪ストーブの導入に補助金制度を創設するなど需要がさらに高まっており、エネルギーの地域内循環が広がりつつある。

地域活性化イベントへの貢献

我々が伐倒した木材は、様々な地域活性化イベントにも活用され、地域づくりにも貢献している。

①みなかみツリーハウスプロジェクト（平成30年）

自然の魅力を身近に感じてもらおうと、町やリンカーズなどが連携して、町内施設に100％町内産材のツリーハウスを建築。製作費はクラウドファンディングによって募集し、材料となるスギの間伐材のほとんどをリンカーズが提供している。

みなかみユネスコエコパークのシンボル、町内産材100％のツリーハウス

活動を継続的なものとするためにも、活用が困難な木材は道の駅で薪として販売

「緑のインタープリター」による講座、森林について楽しく考える機会を提供

木育キャラバンにおける薪割り体験、子どもたちにとって木に触れる機会自体が貴重

②花と緑のぐんまづくり「ふるさときらきらフェスティバル」（令和元年）

花と緑にあふれた魅力ある地域にするため、町内で「ふるさとキラキラフェスティバル」が開催され、メイン会場を彩った木製の花壇の材料をリンカーズが提供。間伐した木材を無駄なく全て使い切ることができている。

③クリスマストーチナイト（平成29年～）

閑散期の観光地を盛り上げようと、道の駅と連携してクリスマストーチナイトを開催。スギの間伐材を活用したスウェーデントーチを多数作成し、幻想的な夜を演出した。

暮らしの中に木を取り入れていく「木育」の推進

町や地元小学校、町内事業者とも連携し、伐採した木材をおもちゃに加工したり、子どもが木に触れる機会を創出したりするなど、「木育」の推進に取り組んでいる。

①木育キャラバン

町が開催している木のおもちゃと触れ合う「木育キャラバン」の一画にブースを設け、木や竹を使ったおもちゃ（びゅんびゅんごまやバードコール、竹の水鉄砲など）の制作や薪割り体験などの場を提供し、木を幼少の頃から身近に使うことを通じて、木の魅力を知ってもらう取り組みを推進している。

②緑のインタープリター

メンバーのうち数名が、県が主催する「緑のインタープリター」講座を受講し、森林や緑づくりに関する広範な知識・技術を有する指導者として活動している。地域の子どもたちに対して、森林について楽しく考える機会を提供し、次世代の育成に貢献している。

③地元小学校との連携

直接的に教育に関わっているものではないが、地域の子どもたちの学習環境を充実させようと、日頃の活動で身に着けた技術や道具を利用して、地元小学校の草刈りなど教育環境整備を行っている。

（リンカーズ事務局　大川志向）

地元加工場と連携し、提供した木材で木のたまごプールを制作